

第1回 三朝町コミュニティ・スクール準備委員会 会議録

- 1 日 時 令和3年8月25日（水）午後3時30分～午後5時00分
- 2 会 場 三朝町総合文化ホール 多目的交流室
- 3 出席者 【委 員】別紙名簿のとおり
【事 務 局】（社会教育課）山本課長・河中課長補佐
（教育総務課）山中課長・小谷指導主事・福田係長・早苗専門員
- 4 概 要 【辞 令 交 付】準備委員会委員として7名に辞令交付
【目的と要綱】準備委員会の設置目的と設置要綱について説明
【議 事 等】準備委員会の委員長及び副委員長の選出
三朝町版コミュニティ・スクールのあり方についての意見交換
- 5 内 容
- （1）委員自己紹介（意見等列举）
- ・ 12月で役職の任期が切れるが、本委員はそのまま継続するのか。
 - ・ 地域協議会の代表として6地域の中から2名選ばれているが、地域協議会の総意として意見を述べるのは難しいのではないか。
 - ・ 現在の三朝町地域協議会連絡会の状況は、持ち回り幹事での各協議会活動の報告連絡が主となっていて、事の方向性を決める会議体ではない。町担当課との内部協議が必要だと思われる。
- （2）準備委員会の設置目的と設置要綱について
- ・ コミュニティ・スクールとは、地域と学校・保護者が意見を出し合い、子どもたちを育てていくという仕組みであり、現在の学校支援委員会や学校支援ボランティアなどを連携し、三朝町版のコミュニティ・スクールとしたい。その設置に必要な検討を行うため、準備委員会を設置した。
 - ・ 今年度中に設置に向けた内容を協議し、来年度からのスタートができればと考えている。
- （3）委員長および副委員長の選出について
委員長：山崎一彰氏 副委員長：吉田朋幸氏
- （4）準備委員会のスタートにあたり、地域事情の変化について（山崎会長）

- ・ 時代変化とともに、子どもたちを取り巻く環境と保護者の意識変化を感じている。
 - ・ 新しく地域（集落）の住民となろうとする人たちは、地域にどのように溶け込むのかではなく、地域は自分たちに何をしてくれるのかという感覚が強いように感じられる。
 - ・ 保護者の一部には地域への参加意識が感じられず、できることしかしないという意識が見受けられる。
 - ・ 自分の子どもが優先であり、子どものことで忙しいのか、地域行事に全く参加しない方も多くなった。
 - ・ 町内全地域を見ても、そもそも子どもがいない地域（集落）が増えてきており、そうした地域では子どもに対する大人の意識がだんだん希薄になってきている可能性もある。
- 同じような状況変化を感じている。保護者の参加意識も二極化してきているように感じる。（PTA会長）

（５）意見交換（提案意見等列举） ※・委員意見 →事務局説明

- （配布資料により事務局担当者説明）
- ・ 7月8日の研修会が大雨で中断となったため、コミュニティ・スクールのあり方について十分理解できていない。
 - ・ コミュニティ・スクールについての先生方の受け止め方はどうか。小学校と中学校との関係性をどう考えているか。
- 小学校・中学校を一つのコミュニティ・スクールとすることを考えている。
- ・ 小学校と中学校では学校経営が異なるため、それを各委員に説明するのに校長先生が困るのではないかと心配する。
- 以前は学校と地域との関わりがなかったが、それはダメだということで開かれた学校となり、学校支援委員会を設置して地域の意見をいただくようになった。この流れの中でこの度コミュニティ・スクールの検討が始まった。三朝町にその基盤がなかったかといえばそうではなく、学校支援委員会や学校支援ボランティア、見守り活動など、地域に支援していただいている基盤がある。
- ただし、学校運営協議会を町で一つとすることはよいが、学校長が2人いれば2通りの考え方があるので、小学校、中学校の経営方針を出していただき、学校運営協議会で議論していただく。新しく赴任された校長の経営方針もあるので、第1回の学校運営協議会は4月に開催した方がよい。今まで6月の学校支援委員会で当該年度の学校経営方針を示していたものを前倒しするような考えであり、これまでとあまり変わらないと感じている。ただし、地域学校協同活動推進員の役割が非常に大きいので、早めに決めることが大切になる。
- ・ 学校運営協議会を、令和4年4月にスタートしなければいけない理由は何か。スケジュールが厳しいのではないかと。
- すでに組織してある学校支援委員会などを組み上げ、これを土台としながら例規

等の整理をすることで可能と考えている。その後、進めていく中で新たなものを協議していただくよう考えている。現在示しているスケジュールは、先に行われている自治体を参考にしているが、検討の中で変更も可能と考えている。

- ・ 三朝町としては全く白紙から学校運営協議会を組織するのではなく、すでにあるものを活用するのか。
- 本町は以前から地域の方にたくさんの支援をいただいております、それを活用していきたい。
- ・ 以前、学校サポートとして各学校にコーディネーターを組織していたが、どうなっているか。組織を整えてそれを復活させるというイメージでよいか。
- 学校支援ボランティアは現在も活動していただいているが、コーディネーターについては学校が統合したことと、コーディネーターの高齢化により現在は機能していない状況にあり、社会教育課が行っている。
- ・ 年間の活動の中で、地域のスキルと学校活動のマッチングを行うようにするのがよい。
- ・ 一方通行のお願いにならないようにしたい。
- 町としては、現在小中連携を進めている中で、小中で同様の課題もあること、現在の学校支援委員の方は、小中どちらにも参加されていることから、一つの学校運営協議会でよいと考えているが、2つにすることも可能。
- ・ 小中学校の経営方針は異なるが、学校運営協議会のメンバーとなる人はほぼ同じになると想定されることから、一つの学校運営協議会としてはどうか。各学校の方針は別々に協議してもらうが、メンバーは同一となるイメージ。
- ・ 小中学校の方針の上部に町としての方針があってもよいのではないかと。
- ・ 除草作業や親子会の支援など、地域とはさまざまな関わりがある。
- ・ 学校の経営方針に意見を出すのであれば、PTAの代表として会員の意見を全て聞くことを考えるとまとまらないのではないかと。
- ・ 経営方針は別々であっても、三朝町全体として目指すものがあっても良い。
- ・ 各学校の経営方針の上部に町の教育大綱があり、新年度の経営方針を決める場合は2月に学校支援委員会で評価を受けて若干の修正を行い、決定している。
- ・ 本来であれば、2年前に学校運営協議会を設置している必要があり、地域の方と町の良いところ、悪いところを出して、三朝町の子どもをどう育てるのか1年かけて話し合い、それを受けて校長が方針を出して三朝の子どもを育てることが小中学校共通なものである。合同で協議をし、これを各学校長が持ち帰り学校の経営方針に取り入れる。小中個別の課題は別協議を行う。いろいろな団体の方が協議を行うので、この課題にはこの組織が協力するなど体制ができていく。当面は4月に学校運営協議会を立ち上げ、その後1年間かけて子どもたちをどう育てたいか話し合うことからスタートしてはどうか。
- ・ 三朝の子どもをどう育てるかを熟議する場が学校運営協議会だと思われる。
- ・ 地域学校協働本部は、今のボランティアの再編成という捉えで良い。

- ・ 形を整えるだけというのは違うような気がする。設置はしても、中身については1年間検討を続けるのが良い。
 - ・ 次回は各団体からの意見をいただき、その中で現在のスケジュールで共通認識がどれだけできるのか、町民向け説明会で町民が納得できる説明ができるのか、それまでに議論のベースを整えていきたい。
- この準備委員会で話し合っていたくことであり、現在のスケジュールありきで進めることではないと考える。
- ・ 学校支援委員会で授業を拝見したら、授業の仕方が昔とずいぶん変わっていることに驚き、地域の大人や集落組織の認識は遅れていると感じたが、別の意味でこのコミュニティ・スクールが地域の方に楽しみを与えるものになればいいのではないか。
 - ・ 湯梨浜町は職員人事については学校運営協議会の機能から外しているが。
- それについてもこの準備委員会の中で協議してほしい。
- ・ 昨年と今年、中学校の修学旅行が県内で実施できたことは、全て学校がやったわけではなく旅館組合など地域の協力があったと感じている。すでにその基盤は本町にある。
 - ・ 今後のPTA役員や教員への説明はまだ煮詰まっていないため、2回目の準備委員会の後にしてはどうか。
 - ・ 次回は学校運営協議会のイメージ、地域学校協働本部についても意見をいただき、段階的に意見共有したい。

閉 会

※ 次回は9月22日（水）午後3時30分～ 詳細は別途案内